

## ローラテストによる常用ブレーキ台上実車試験方法

## Test Method of Service Brake using a Vehicle on a Roller Brake Tester

**1 適用範囲**

この規格は、自動車のローラ駆動型ブレーキテスト（以下、テストという。）による常用ブレーキ台上実車試験方法について規定する。ただし、特殊自動車及び二輪自動車については適用しない。

**2 引用規格**

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

**JASO C 402** 乗用車常用ブレーキ実車試験方法

**JASO C 404** トラック・バス常用ブレーキ実車試験方法

**JIS D 0210** 自動車ブレーキ試験方法通則

**3 用語及び定義**

この規格で用いる主な用語及び定義は、**JIS D 0210**による。

**4 試験条件**

試験条件は、原則として次のとおりとする。

- a) 試験車は、正規積載荷重配分とする。ただし、特別に制動力の上限を高める必要がある場合には、積載荷重を増大してもよい。
- b) 試験車は、正常な整備状態でなければならない。
- c) 試験車は、必要に応じて慣し走行を行うものとし、**JASO C 402**、又は**JASO C 404**のすり合せ条件と同等又は同程度の当りの付いた状態とする。
- d) 試験時のブレーキ温度は、通常の温度範囲とし、水にぬれた状態、苛酷な条件で使用された直後など、特別な状態を除いたものとする。
- e) 制動装置に空気、真空又はその他の倍力装置を使用している場合には、これらを正規の状態とする。必要があればエンジンを車両メーカーが規定する回転速度で回転させておく。
- f) テスタ、踏力計、記録計などの計測機器は、正しく校正されたものを使用する。
- g) 踏力の測定は、ブレーキペダルの中央で行い、ブレーキペダルの作動方向に踏力を加える。ただし、オルガン式ブレーキペダルの場合は、原則としてペダルヒンジから 150 mm の位置で行う（**図 1**参照）。また、必要に応じ踏力を測定するかわりに、油圧又は空気圧を測定してもよい。この場合、油圧又は